

PICK UP!!

# お 職員の推し本

## もののけdiary

京極 夏彦・石黒 亜矢子 / 岩崎書店



化け者が寺や屋敷に現れて、怖いもの知らずの男が知恵やとんちでやりこめる……妖怪話では定番な話ですね。その中でも独特の不気味さとユーモラスな内容で知られているのが、江戸中期に描かれた「稲生物怪録（いのうものけろく）」！16歳の武士の子・稲生平太郎が体験した、7月1日から30日間の奇想天外な怪異譚。何度も小説化、マンガ化、舞台化などされていますが、今回お洒落な文章と魅力的な絵で、新たに絵本になりました！ページはすべて折り込み仕様で、迫力のある絵をたっぷり楽しめます。ちょっとポップで、ちょっとひんやりする、今の季節にぴったりの1冊です。

## 夜明けのすべて

瀬尾 まいこ / 水鈴社

PMSとパニック障害に苦しむ二人が、お互いの病気を知ったことから始まる、優しい交流の物語です。どちらの病気も見た目には分かりにくい、当事者じゃないと本当のつらさが分からないもの。題材的に重い雰囲気のお話かと思いきや、二人の会話や、お互いに対する行動がさっぱりとしていて明るく、思わず笑ってしまう場面もあり！二人を支える職場の人達も思いやりに溢れていて、温かい気持ちになりながら、さくさく読み進められました。



## 休むヒント。

群像編集部 編 / 講談社



休むのに“ヒント”なんて必要？と思いながら読み始めました。ところが、現代の日本人は休むことに罪悪感を感じたり、働き方の多様化で逆にうまく休めなかったりと、完全な「休み」はハードルが高くなりつつあるようです。いざ、休みがとれても何をしていいのかわからないという方も多いのでは？33人のエッセイが教えてくれる「休むヒント。」は、他人に時間を委ねるもよし、自分で決めるもよし、何もせずに終わってしまうのもよし！時間との向き合い方を考える一冊です。夏休み前に、ぜひ読んでみてください♪